

分野名		生体機能形態医学分野							
科目名		病態診断医学							
英文科目名		Pathology and Laboratory Medicine							
担当教員	研究指導教員	山田 壮亮 教授							
	科目担当教員								
代表的な研究課題		人体病理学（炎症性疾患から腫瘍まで）							
		動脈硬化からメタボリックシンドロームへ：遺伝子改変動物モデルを用いた病理組織学的検討							
		抗酸化酵素ペルオキシレドキシン(PROX)4と metabolic syndrome, そして悪性腫瘍							
学修目標	一般目標	病態診断医学の基本的な知識、技能、態度を身につける。 病因・病態を解明するための研究を自ら立案し、説明できる。 研究内容の学術論文を作成する。							
	行動目標 (DPとの関連)	臨床検査診断学の基本的検査法を自ら実施し、結果を解釈できる。						(DP1・2・3・4)	
		剖検診断、病理組織診断、細胞診断の基本と病因論を理解し、説明できる。						(DP1・2・3)	
		研究課題に即した検査法、手技を獲得できる。						(DP1・2・4)	
学位授与方針 (DP)	DP1：医学・生命科学全般にわたる幅広い学識と生涯にわたり自立して研究活動を継続する能力を有している。 DP2：高い倫理観と高度の専門知識を有し、最先端の医学研究を企画・立案して遂行する能力を有している。 DP3：独創的な学術論文を論理的、かつ明確に記述して公表し、国内外の学会において発表し討議する能力を有している。 DP4：科学的技能を活かして、地域医療から国際保健・医療まで医療全般の進歩に貢献し、次世代の研究者育成にも貢献する能力を有している。								
教科書		Histology for Pathologists. Fourth edn. Mills SE (editor), Wolters Kluwer, Philadelphia, 2012 Surgical Pathology. Tenth edn. Rosai J, Mosby, Edinburgh, 2011							
準備学習	内容	事前に配布する資料を読み、内容を理解しておくこと。また、該当する項目を論文等で調べておくことも望ましい。教科書の該当部を読んでおくこと。							
	時間	20分/1回の授業あたり							
課題に対するフィードバック		レポート等の課題を提出させた場合は、内容のチェック・添削を行い、本人へフィードバックして理解度のアップをめざす。							
評価方法等	評価方法	学会および論文として公表したものを総合的に評価する。 評価配分：レポート 100%							
	成績評価基準	教育要項22頁[成績評価・単位認定方法等]参照のこと							
科目番号		講義	5010601	演習	5010602	実験実習	5010603	特別研究	5050108
単位	4		4		4		6 (2-4 年次で)		
	30コマ	60H	60コマ	120H	60コマ	120H	30コマ	60H	
開講時期		通年		通年		通年		通年	
配当年次	主科目とする場合	1または2年次		1または2年次		1または2年次		2-4年次	
	副科目とする場合	1、2、3年次		-		-		-	
選択/必修の別	主科目とする場合	必修		必修		必修		必修	
	副科目とする場合	選択		-		-		-	

時間割	区分		講義	演習	実験実習	特別研究
	昼間	前期15週	月曜 2限目	木曜 2-3限目	水曜 4-5限目	月曜 3限目
		後期15週	月曜 6限目	水曜 6-7限目	火曜 6-7限目	金曜 6限目
	夜間	前期15週	月曜 6限目	水曜 6-7限目	火曜 6-7限目	金曜 6限目
後期15週						
備考		授業時間の詳細は、21頁「医学研究科における授業時間」を参照のこと。 上記の時間に参加できない場合は、担当教員と協議の上、具体的な時間割を決定する。				
授業場所	医学教育棟6階 臨床病理学		医学教育棟3階 病院病理部	医学教育棟3階 病院病理部	医学教育棟6階 臨床病理学	
担当教員	山田壮亮教授		山田壮亮教授	山田壮亮教授	山田壮亮教授	
授業内容	生命組織体の構造、機能および生体情報を分子、細胞、組織、器官、その総合体である生体全体の各レベルにおいて、臨床生理学、臨床化学・免疫血清学、臨床微生物学および病理学的に解明し、治療や予防に有益となる診断学を確立する。臨床検査学を能率的に活用し、新しい検査法の開発とそれを駆使した病因・病態を解明する研究を行うための基礎原理を講義する。特に骨軟部腫瘍、非上皮性腫瘍の悪性度に関する分子生物学的研究、発生機構を講義する。		講義内容の理解を深めるため基礎的および臨床的演習を行う。臨床検査各種診断学の基本的な研究方法を習得させ、個々の研究課題に即した技術を獲得させる。得られた結果に対し、考察、評価を加え、高度の学術論文の理解、学会発表方法などを習得する。各種検討会、研究セミナーでの討論を通して研究の質と思考判断能力、問題解決能力を高めるように指導する。	個々の研究課題に即した実験実習を行う。 ・剖検診断、病理組織診断、細胞診断の基本と病因論を理解する。 ・癌細胞の発生、増殖に関わる遺伝子の基本的な考え方を把握する。 ・腫瘍組織等を用いて、ウエスタン、PCR、ISHなどの分子生物学的手法による病態解析を行う。 ・癌・肉腫等の癌関連遺伝子を解析し、組織診断と悪性度評価への利用を研究する。 ・臨床検査医学的研究と精度管理の実践を行う。	腫瘍の診断と発生機構の解明に関する研究	
授業計画（インターネットに掲載）	講義	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5010601.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5010601.pdf</a>				
	演習	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5010602.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5010602.pdf</a>				
	実験実習	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5010603.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5010603.pdf</a>				
資格取得などのキャリアパス	日本病理学会専門医の取得を目指す。					
研究指導教員の実務経験	医師					
履修上の注意事項	①質問の受付は、随時行う。					
	②特別な配慮を必要とする場合は、事前に担当教員に相談すること。					
	③主科目として履修する場合は、1年次に共通科目実験動物学を履修すること。					
	④履修科目届にて履修希望を届け出し、履修年度の2月に、授業科目履修報告書にて、成績を報告することにより、修了要件の単位として認定される。					
	⑤履修報告の際には、履修した科目ごとに「授業改善のためのアンケート」を添付すること。					
オフィスアワー	山田壮亮教授（医学教育棟棟6階 臨床病理学教授室） 水曜日 9：00～12：00（事前にメールでの照会必須） e-mail sohsuke[at]kanazawa-med.ac.jp [at]→@					